

私たちのメディアを創るラボ

略称・メディアラボ

お世話になった連携先団体など

山陽新聞社

(本社・岡山市 岡山県、広島県東部をエリアとする地方新聞)

ラボで解決に取り組んだ課題

山陽新聞のこれからの情報発信を考える

活動のあらましについて

新聞やニュース、ネット時代のマスコミに対する基礎知識を学び
「さん太しんぶん館」(早島町印刷工場・見学施設)を見学した

〈クロスSWOT分析から新聞に関するアンケートを取る〉

「新聞定期購読者は少なく、SNS利用者は多い」「読みたい記事だけ読みたい人が多い」
その結果から、2つのグループが新しいビジネスモデルを提案した。

〈Ja Raw! (新聞アプリ) を企画〉

- ・岡山の方言「～じゃろう」と、RAW画像の「RAW」が由来の、スマートフォン(デジタル)と、新聞(アナログ)が融合した次世代ニュースアプリ!
- ・有料利用が基本だが、無料でも利用可能。(ただし、全機能は利用できない。)
- ・広告とアプリ内課金を運営費用とする。 ・ Ja Raw! の開発費用は、約380万円。

〈サン分〉：3分程度で読めるLINEを使った新聞提供サービス

- ・動機：LINEの利用者が多く、手軽に触れることができ、参入もしやすいから。
- ・利点①：利用者との双方向のコミュニケーションがとれる。
- ・利点②：新聞の分割で料金面を低価格で抑えられる。
- ・目的：サブスクに抵抗がある顧客でも安心して利用ができるようにする。
- ・方法①：LINEを経由して面ごとに分けた記事を販売。
- ・方法②：年単位契約による割引。
- ・SDGs：このサービスは、SDGsの11と16に該当する。



1年間の活動の総括・成果について

- アプリ等の媒体を通して新聞を発信することで、新聞の新しい形を企画した。この変化に興味を持つ人は多いと考える。
- 新聞社がSNS市場に参入し、SNSの弱点である信頼性の低さをカバーすることで、新聞社の現状を変える第一歩に近づく。

